

出前講座 本浦交流センター みこし会

H28年6月13日（火） 9:30～10:30 参加者 33名

講話Ⅰ 「いつまでも自宅で暮らすために」(在宅医療)

地域包括支援センター 保健師 久保小百合

・日本人の死亡率は・・・人はいつか必ず死ぬ 死亡率は100%です。

どこで最期を迎えたいか、どんな生活をして最期を迎えたいか一人一人考えてもらいたい

- ・2025年問題とは・・・？65歳以上の高齢者が30%超える時代となるが串木野市ですでに30%を超えている。75歳以上も年々増加している。これからは年を取っていく中でどんな生活をしたかそれぞれ考えてほしいです。この高齢者を地域でどう支えていくかが課題になっています。施設や、病院はもう増やせないのが国の方針です。病院も長く入院できなくなっています。治療を受けて良くなったら、自宅で生活し地域で支える体制が地域包括ケアシステムになります。いちき串木野市のアンケートでは自宅で最期を迎えたい人が41%病院で迎えたい11%考えたことがない人36.3%でした。家で過ごしたい気持ちがあるが、できないかも・・・と思っている人の多いと思うが、介護が必要になっていろいろな支援を受けて自宅に生活できる方法もある。今串木野医師会と一緒にそのような取組をしているので参考にさせていただきたい。



講話Ⅱ「がんばりすぎない介護 を応援します。」

いちき串木野医師会コーディネーター 南新敦子

- ・在宅医療・介護連携推進事業を串木野市と協力してすすめている。
- ・もしもの時、自分の思いや希望を家族や身内に伝えておくことは、入院して治療の意思表示や決定、延命の対応がいち早くできる。医療の現場では独居や、遠方に家族がいてすぐ駆けつけられず、決められれず周囲が困惑する事態もある。日頃から伝えておくことをきっかけにさせていただきたい。
- ・医師会でマイライフノートを作成している。（紹介と配布）
- ・実際、介護状態の患者さんが自宅退院にむけどのような支援をうけて、退院されたかの事例を紹介する。
- ・訪問看護師やケアマネージャー、福祉用具など多職種の人がそれぞれかわり患者さん、介護者を支えています。
「がんばりすぎない介護を応援します」パンフレット紹介。



マイライフノートを記入していただきながら、参加者の声をきいた

- ・自分たちの身に关わる身近な問題についての話だったので興味深ききました。
- ・マイライフノートに実際に書くとなると、なかなか自分一人では決められない、簡単には書けないものだ。
- ・「書けて言われても、そんな時にならんとわからんなあ」
息子やらに、聞いてみらんと・・・

皆さん真剣にノートに向かっていたきました

